

自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会（第5回） 議事概要

1 日時 令和元年8月7日（水） 13：30～15：30

2 場所 ホテルルポール麹町 3階「トパーズ」

3 出席者

【委員】（座長を除き50音順）

室崎益輝座長、黒田洋司委員、阪本真由美委員、西藤公司委員、宗片恵美子委員

※吉川肇子委員、永田宏和委員は欠席（永田委員の代理として小倉丈佳氏出席）

【オブザーバー】

公益財団法人日本消防協会

4 概要

（1）開会

（2）議事

① 今年度の進め方（予定）（案）について

事務局より、資料1に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- （西藤）地方公共団体にカリキュラムやプログラムについて意見照会をかけるとのことだが、どういう団体に、何件程度照会する予定か。
⇒（事務局）実効性あるカリキュラムやプログラム例になっているか、都道府県及び市町村のいくつかの団体に対して、サンプル的に調査する予定。
- （室崎）自主防災組織に対する研修や訓練に熱心な団体だけに聞くのでは偏りがあるが、熱心なところはやはりポイントを心得ているだろう。
- （黒田）やる気のある団体であれば、その中には熱心なところもあれば、そうじゃないところもあるという形で幅広く調査できるのではないか。
- （西藤）一般財団法人日本防火・防災協会では、毎年20件程度の自主防災組織のリーダーづくりの研修会の支援をさせていただいているので、情報提供したい。
- （室崎）東京都の国分寺市はたいへん長く自主防災組織リーダー向けの研修を行っており、推薦する。

② 自主防災組織のリーダーを育成するための教育・訓練カリキュラム（案）について
事務局より、資料2、資料3に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- （黒田）資料2別添の新旧対照表に欠番があるが、最終的には整理するのか。
⇒（事務局）最終的には欠番は解消し、利用しやすいように整理する。

- (阪本) 資料2別添の新旧対称表の、C7「わがまち(地域)の防災計画」という名称は、地区防災計画という名称が地域に定着しつつあることもあり、また、C19「わがまちの防災対策」と名称が似ているので、C7は地区防災計画という言葉を残してはどうか。
- (阪本) 資料3別添「カリキュラムの全体像」の上の段を自助・共助で整理しているが、自主防災組織は公助との関係もあり、特に上にある「10 わがまち(地域)で防災訓練や講習会などを実施する」や「9 防災資機材を管理する」、「8 わがまち(地域)の防災体制をつくる」は行政と一緒に考えてほしいところでもあり、公助を加えて整理するとよい。
- (阪本) 「10 わがまち(地域)で防災訓練や講習会などを実施する」と「8 わがまち(地域)の防災体制をつくる」は、大大項目の「災害への事前の備え」と「災害への対応」の両方に関係する項目ではないか。両方にまたがるように大項目を配置するとよい。
⇒(室崎) 図の整理が難しくなりそうなので、意見を踏まえ事務局で検討して頂きたい。
- (阪本) ボランティアに関する学習項目のタイトルに「支援」という言葉が入っていないが、被災地内では近隣の自主防災組織同士が支援し合うというケースもよくあり、また、外部地域から支援を受けるケースもある。支援という言葉を入れてはどうか。
- (黒田) このカリキュラムはたいへん有益なものだと思っているが、利用者側からすると、カリキュラムと言うともっと詳しい解説が掲載されているように見え、誤解をうむ可能性がある。その上で、このカリキュラムの必要性を考えると、今までの自主防災組織向けの研修は思いつきでやるようなことが多く、その内容に隔たりとか漏れとかが起きやすい状況であったが、今回のような体系的なカリキュラムがあると、この中のこの部分についての研修を行っているといったことが分かるといった意味がある。また、自主防災組織の育成の担当者がカリキュラム使うときに、基礎編からレベルアップしていく研修を企画していく上での見取り図にもなる。地域防災を引っ張っていくリーダーの人材育成のためのロードマップ的な使い方もできる。市町村の防災担当者だけでなく、福祉や土木部門など、役所内の多様な人材に講師になってもらうなどして自前で人材育成を図っていくときのカリキュラムとしても使える。そういった活用方法を、カリキュラムの冒頭の「活用方法」に、コラム的に入れてはどうか。さらに、カリキュラムの「学習の概要」、「学習のねらい」の次に、「学習の方法」を記載してはどうか。
- (小倉) カリキュラムの情報はかなり多く、何か取っかかりとなる、使い方のガイドがあるべきではないか。例えば、まずどれから取り組めばよいのかが分かるように、うちの地域ではこの部分は十分強いだろう、ここは弱いだろうというのがわかるチェックをすることで現状の自主防災組織の状況がわかり、我がまちの弱いところを強化するための学習項目をカリキュラムの中から選べるようになるとか、初級・中級・上級に各学習項目をレベル分けして、初級のうちは既存のすぐできる手軽なものをまずやり始めましょう、自分たちなりの研修を計画するのは中級、上級からやってみましょうといったように、ステップに分けたチャート式の使い方ガイドのようなものがあるとよい。
⇒(室崎) C1から6あたりは基礎に該当し、まずそれはきちっとやってください、その上で、それぞれの組織にとって何が重要かというのをチェックリストで探しながら学習項目を選択し、それに組み、それがすんだら次を探して学習するという感じにできると

よい。

- (小倉) C21の「災害の事前の備え」の学習内容の中に、家でどう避難生活を送るのかという在宅避難の視点が漏れているようなので追加すべき。
- (宗片) 対象である自主防災組織のリーダーとなると、どうしても男性のリーダーといったイメージが強調されてしまう。現在、自主防災組織のリーダーの多くが男性であると思われる、そういう方々が自然に対象になってしまうことが懸念される。女性はもちろん、障害のある方もお年寄りも若者たちも外国人の方もといった、文化も障害の有無も超えて、多様な人たちがリーダーとして十分この研修の対象になるということを記載すると、意識も変わり、人材育成の可能性も広がっていくのではないかとよい。
- (室崎) 狭い意味での自主防災組織のリーダーではなく、地域の防災教育を自主的に行っているリーダーたちなど、対象の幅を広げると良い。使い方のガイドは丁寧に書いて、手がかりがつかめるようにできるとよい。
- (室崎) 大阪市の消防局が『今こそ防災』という大変良い防災訓練のテキストをつくっている。たくさんの訓練のメニューが細かく全部載っているので、参考文献のどこかに入れておいていただくとよい。
- (小倉) 女性や若者へ間口を広げるという意味でいうと、言葉遣いが大事。例えば資料3のタイトル「自主防災組織のリーダー育成のための教育・訓練カリキュラム」は男性的。サブタイトルぐらいにして、若い人や女性に響くよう、やわらかいタイトルにするとよい。
- (西藤) 「安心・安全に避難生活を送る」の中項目のCの42の災害関連死とC44の健康維持は、内容がかなり被るのではないかと。もし、災害関連死の学習項目が必要であるなら、並びを健康維持、災害関連死、防犯活動とすると良い。
- (室崎) 全て網羅しているという意味では目標は達成しているが、それは学習すべき項目がどこにあるのか探するのが大変ということでもある。
⇒ (黒田) プログラムとも絡んでくる。プログラムとしてどんな提案ができるのかということと、カリキュラムはかなり近い関係にある。

③ 自主防災組織のリーダー育成研修プログラム例(案)について

事務局より、資料4に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- (黒田) 説明で「活用ガイド(案)」を作成するとあったが、これはどういう位置づけで、いつごろ出てくるものか。
⇒ (事務局) カリキュラムが網羅的な非常に大部なものになっているため、これだけを示すと、カリキュラム自体が使われなくなるおそれがあるという認識があり、活用をサポートするようなものが別途必要ではないかと考えていた。本日いただいたご意見を踏まえ、カリキュラムの中で何らかを示すか、別のものをつくるかどうかについて考えたい。
- (室崎) カリキュラムとプログラムの関係については、どこかで説明しているのか。
⇒ (事務局) カリキュラムに付属する資料として、資料4別添のプログラム例を位置付けており、そのことを資料3のカリキュラムの冒頭の「(3) 本カリキュラムの活用方法」で説明するイメージでいる。コラム的に掲載してはどうかというご意見もあったので、それ

を含めて検討したい。

- （黒田）今年度実施する研修でプログラム例を試行していく中で、内容的にも工夫していくことになると思うが、「活用ガイド（案）」のなかで、カリキュラムの使い方をいろいろと提案できるのではないかな。カリキュラムのすべてを学ぶというよりは、自治体の人たちなりが企画立案するときの全体の見取り図みたいなものとして使えるだろう。そのような使い方が、活用ガイドとして提供されると、使い方の可能性が高まると思う。
- （室崎）今の発言は、最も重要なポイントである。どうやってうまくカリキュラムを活用していくかがイメージできるようになるとよい。
- （阪本）プログラム例の個々の学習項目のボリュームが分かりにくい。例えば、同じ単元で2回同じ学習項目があったり、プログラム例毎に所要時間も違っていたりする。何を目安にこのプログラムを作ればよいのか。どの部分をどうピックアップしたらプログラムになるのか、何らかの形でわかりやすくなるとよい。
⇒（事務局）もう少し精査させていただく。逆に、先ほどご提案いただいたように、同じC3であったにしても、C3の内容にも上級と、より初級なものがある。その辺の区分けが大まかにせよできるのであれば、おおよその目安はこれぐらいになるといった考え方ができるのかと思う。しかし、講座の時間の制約によって学ぶ濃度が変わっていくという関係性にあり、「防災リーダーの役割とは」の研修プログラム例で言えば、時間が2倍になっているところは、より多く学んでいただきたいという思いのもとに時間設定している。また、ワークショップや演習ができる項目では、少し時間をとって議論していただくというような意味で長目の時間設定にしている。
- （阪本）例えば演習だったら30分1パッケージにするなど、標準的にして使いやすくとよい。
⇒（室崎）まずは標準的なものとして画一的にしておき、それぞれのプログラムで必要に応じて長くするところはある程度、そういう方が悩まなくてよく、使いやすい。
- （西藤）「災害から住民の命を守るには」のプログラム例の1限目に「土砂災害発生の危険性と避難」とあるが、「土砂」を取ったほうが良いのではないかな。
⇒（事務局）誤記のため修正する。
- （室崎）現在の4テーマの次のテーマは自分たちで考えなさいということでよいかな。プログラム例はなくても、テーマだけでも提示してはどうか。
- （黒田）プログラム例の上の枠に、「最低限必要と考えられる知識とスキルを身につけることのできるプログラムです」とあるが、内容はどちらかというと知識であり、スキルという部分が何を示すのか分かりにくい。受講者としては、スキルを身につけられると嬉しいと思うわれ、スキルの要素が入るとよい。現在のカリキュラムは、何がスキルで何が知識なのかが分かりにくく、切り分けが必要。また、全部は無理にしても、プログラム例には何かスキルの要素を入れたほうが良い。
- （小倉）研修を計画する人側に立った目線でカリキュラムを見ると、例えば、C1のところは参考資料のURLだけしかヒントにできるようなものがなく、C2は参考資料と参考事例という実際の事例が見られる。C3は参考のURLと事例と、さらに教材、素材が入手で

きるというように、学習項目によって実施しやすさのレベルが違っているので、学習項目に実践レベルを示すという方法がある。ただし、レベルを付けることにより、実施される学習項目が偏ってしまう可能性があり、やって欲しい学習項目だが、やらないという選択にもつながってしまう可能性がある。その他、知識とかスキルとか、ワークショップができるというようなことも明記するなど、プログラム作成の参考になる要素を示すとよい。

- (阪本) 神戸市の学校の防災教育のガイドは、知識と技能と心の3つの柱を立て、それによりのカリキュラムが該当するかが分かるように整理している。スキルがどのカリキュラムに該当するかを示すというのは一つの方法だと思う。
- (阪本) 言葉の意味がわからないということを受講生からよく聞く。代表的な言葉の用語集のようなもの、あるいは索引のようなものがあると使いやすくなるのではないかと。
⇒ (室崎) 用語集を作るのは時間がかかるため、実際に運用を行う中で確かめ、そういう声が出てきたら、用語集も作るとよい。
- (室崎) 教材にも、知識やスキル(演習)など、何に当てはまるのかといった、マーク、あるいは色分けする等、一見して分かりやすくするような対応をするとよい。
- (小倉) 今後、教材をつくるっていくうえでは、手っ取り早く教育・訓練を実施できる環境をつくるのが、裾野を広げるという意味では最もよいと、一通り調べて、教材がないところから教材を作成するとよい。
- (黒田) 今年度は2カ所で研修を実施する予定とのことだったが、4つのプログラムすべてを実施するのか。
⇒ (事務局) 地方公共団体との調整が必要だが、できるだけすべての結果を得たい。今後調整していく。
- (黒田) 研修は、都会よりも地方で実施するほうがよいのか。防災の担当者も少なく、自主防災組織の形はあるが、何も活動がなされていない市町村をセレクトすべきだろうか。消防団なども含めて、地域防災を活性化しようといった自治体で試行するといった考え方でもよい。
- (室崎) この取り組みを進めていこうとすると、全体をコーディネートするような恒常的な組織や人が必要。例えば、消防防災科学センターなどに地域教育部門のようなものをつくり、カリキュラムの使い方の支援や、カリキュラムやプログラム例の改善、更新など、持続的にサポートし、充実させ、よい活用事例を広めていく取り組みが必要である。
- (宗片) 仙台市では、震災直後から地域防災のリーダー(自主防災組織をターゲットにしているわけではなく、町内会からの推薦)の養成を継続的に実施しており、人材は蓄積してきているが、育った人たちが地域でなかなか活用されない、自主防災組織とうまくつながらないといった課題がある。仙台市の意見も聞いてみてもよいと思う。
- (阪本) 自主防災組織の結成率が低い県を選んだり、災害のリスクがありつつも経験していない県を選んだりすると、活性化もできよいのではないかと。
- (室崎) 地方都市で、あまり今熱心でないところを1つ選びやってみるとよい。
- (阪本) 愛媛県や山口県のように、防災士は多く育成しているが、自主防災組織は進んでいないようなところもある。

- （室崎）これまで自主防災組織の結成率の数字を追っかけていたのを、こういうカリキュラムやプログラム例を使って中身を入れていくという取り組みはとても重要。
- （室崎）「自主防災組織向け」というところはとても重要。防災士とか個人向けのカリキュラムや教材はたくさんあるが、組織として力をつけることに焦点を絞った仕組みは少ない。日本の自主防災組織全体が防災力を持つための手がかりとなる、とても重要な取り組みであり、その辺はきちっと強調してよいと思う。

以上